

EPA 介護福祉士候補者は介護福祉士国家試験の どのような語彙に躓くのか

—ある介護福祉士候補者へのインタビュー調査の分析—

What Kind of Words in the National Examination for Care Workers
Does an EPA Care Worker Candidate Fail to Understand?
: Analysis of Interview with an EPA Care Worker Candidate

田 辺 淳 子

要旨：

2008年に経済連携協定（以下、EPA）に基づき外国人介護人材の受入れが始まった。訪日前・訪日後の日本語研修や就業後の日本語学習など日本語教育に深く関係するため、制度創設当初からEPAの外国人介護人材対象の日本語教育に関してさまざまな調査・研究、教材開発等が行われている。しかしながら、インドネシアとフィリピンの介護福祉士候補者（以下、候補者）の介護福祉士国家試験（以下、国試）の合格率は以前に比べ、この数年低調である。2019年度の第32回国試に不合格であったEPAのインドネシア人候補者へのインタビュー調査によって、国試のどのような語彙に躓くのか調べた。その結果、候補者が国試で意味がわからなかった語彙は日本語能力試験（以下、JLPT）の級外およびN1レベルの語彙が7割程度を占めることがわかった。また、わからなかった語彙はその性質から7つのカテゴリーに分類することができた。まとめでは、調査結果を基に国試合格・不合格の場合の相違点および類似点、調査結果の教育への応用について述べる。

1. 研究の背景

1.1 EPA介護福祉士候補者対象の研究と国試用教材の概要

2008年にEPAに基づくインドネシアの介護福祉士候補者の受入れ¹⁾が始まって以来、日本語教育の視点からつねに調査・研究や教材開発が行われている。布尾（2016）のようにEPAの受入れ制度やその日本語教育の課題を明らかにするもの、遠藤・三枝（2013）のように国試の平易化のための提言、中川（2010）、野村他（2011）のように国試を分析したもの、神村（2019）のように日本語教育の実践をまとめたものなど多岐にわたる。

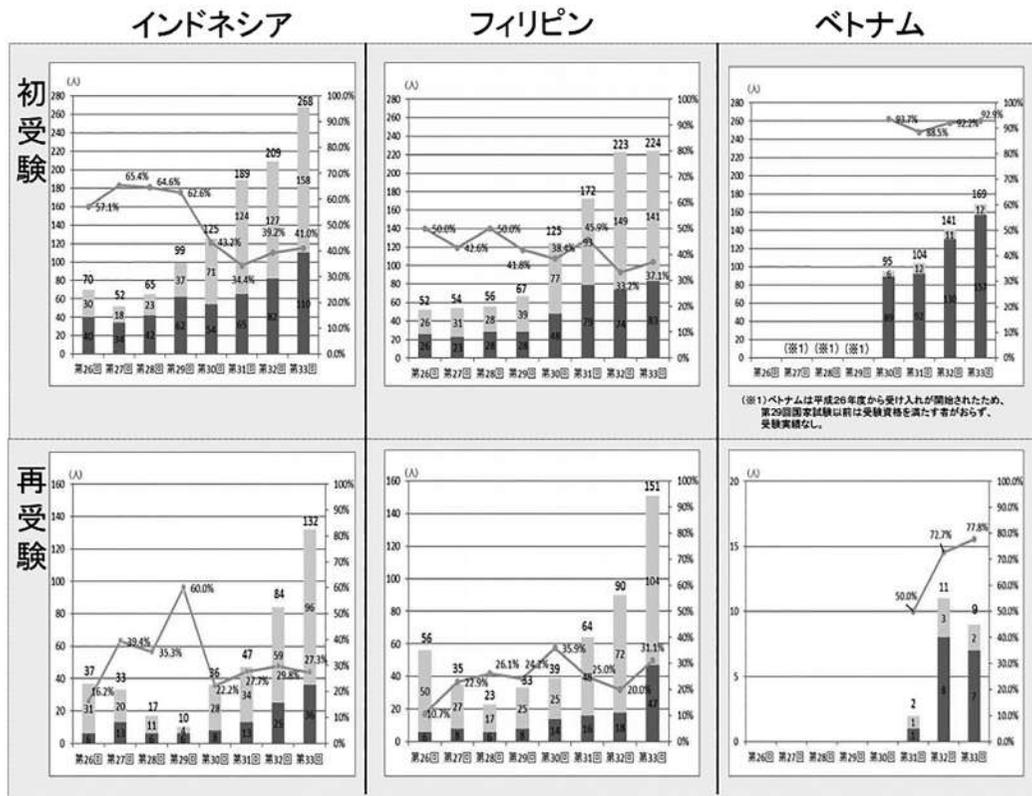
候補者は訪日前・訪日後を合わせ約1年研修を受けており、日本語研修がその中心である。就業後の学習については介護施設（以下、施設）による違いが大きい、国試合格を目指して段階的に学習計画が立てられ、実施されることが多い。一般的に施設における国試合格に向けた学習では、非日本語母語話者向けに開発された教材が多く使用されている²⁾。主な教材を挙げると、EPAの受入れと支援事業を行っている公益財団法人国際厚生事業団（以下、JICWELS）がホームページで国試対策用に販売している各種教材およびe-ラーニング学習支援システム、田村（2017）による外国人介護人材の国試受験に焦点を当てた対策本、中川他による国試学習支援サイト「か

いごのことはサーチ」、「介護の漢字サポーター」、「かいごのご!」などがある。

1.2 EPA介護福祉士候補者の国試の合格状況

国試を実施する公益財団法人社会福祉振興・試験センターのホームページによると、国試の合格基準は、「ア 問題の総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者」「イ アを満たした者のうち、以下の試験科目11科目群すべてにおいて得点があった者」とし、11の科目群を挙げている。毎年1月の最終日曜日に試験が実施され、3月下旬に合格発表が行われる。厚生労働省のホームページにはEPA候補者の国試に関する情報が公開されている (<https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/000759472.pdf>)。2021年3月26日に公開された情報によると、2021年1月に実施された第33回国試を含む過去8年の合格者数、合格率は表1のとおりである。

表1 厚生労働省のホームページに公表されたEPA介護福祉士候補者の国試の結果
棒グラフは受験者数と合格者数、線グラフは合格率



最も早く制度が始まったインドネシアのEPA候補者が2012年に介護の国試を初めて受けてから10年が経つ。国試合格に向けた日本語学習支援や、候補者に合わせ国試上の配慮が実施され³⁾、調査・研究や教材開発も進んでいるにもかかわらず、近年のインドネシアとフィリピンの候補者の国試合格率の低調はなぜ起きているのだろうか⁴⁾。著者は介護の声かけの研究を行っているが(田辺2018)、協力先のいくつかの施設の担当者から、「近年日本で長く働きたいと考える候補者

が減り、それに伴い国試へのやる気も低くなってきている」という話を聞いたことがある。また、2017年の法律の改正により日本で介護職として就業可能な資格がEPA以外にも、技能実習、特定技能、介護資格を取得した留学生に対する在留資格「介護」など多様化したため、特に特定技能へのビザの切替を希望する候補者が現れ、国試への熱意が下がったとも聞く。これらも合格率低調の理由として考えられるが、候補者が国試のどこに困難を感じ、国試へのやる気が下がっているのか詳しく調べることが必要であると考えた。著者はEPAの1期生より訪日後研修を担当し、2016年より国試対策授業を行っているが、国試後に感想を聞くと、候補者は必ず「言葉が難しい」と答える。しかし、何がどのように難しいか聞いても、「専門の言葉が難しい」「新しい言葉がたくさんあった」「新しい問題があった」といった漠然とした回答ばかりである。そこで、候補者が国試の問題の中のどのような語彙がわからなかったか調査を行うことにした。

2. 調査

2.1 調査対象者

調査対象者は、9期生として2016年に来日した20代後半のインドネシア人介護福祉士候補者で、2019年度の第32回国試に不合格であったAさんである。著者はAさんの訪日後研修を担当しており、施設での就業開始後もAさんとEメールやラインでのやり取り以外に、1年に1、2度会い、十分なラポールを築いている。また、2020年5月より国試の再受験に向け、週1回国試対策授業を担当することが決まっていたため、追加調査が可能なこともあり、本調査に適切な調査対象者であると判断した。

Aさんは、EPAの訪日前研修に参加する前に、EPAの先輩候補者のアドバイスに従って半年ほどインターネット上のアプリケーションを使って、挨拶と簡単な自己紹介と仮名を学習した。訪日後研修修了時にはJLPTのN3レベル相当に達していた。Aさんは訪日後研修時も就業後も日本語でのコミュニケーションに積極的でよく話すが、文法や漢字を正確に積み上げて学習することはあまり得意ではなく、話したり書いたりする際は間違いが散見される。また、試験では緊張しやすく、点数が伸びないことがある。2017年7月にJLPTのN3には合格したが、2018年7月および12月に受験したN2は不合格であった。

就業後の国試に向けた日本語学習については、Aさんからの聞き取り情報によると表2のとおりであった。

表2 Aさんの就業後の国試に向けた日本語学習状況

年	学習内容
就業1年目	・就業して約半年後から、就業先の施設が申し込んだオンライン学習を開始 教材を使った自学と数か月に1回のオンライン授業の組み合わせ（約2年） ・JICWELSの教材使用や集合研修への参加はなし
就業2年目	・同上 ・JICWELSの教材を使用した自学
就業3年目	・JICWELSの教材を使用した自学 ・JICWELSの集合研修および模試に参加 ・日本語講師の好意によりカフェで国試の過去問題の学習（1回2時間を約10回）

Aさんは1年目から2年目に行われたオンライン学習が苦痛だったそうである。同じ施設で働く候補者も同様の意見で「やめたい」と施設長に申し出たため、その後の学習は基本的にJICWELSの教材を使った自学とJICWELSの集合研修と模試になったという経緯がある。武内(2017)でも指摘されているとおり、候補者が施設で就業しながら日本語学習をするのは難しく、Aさんも「働きながら自分で勉強するのは大変」と述べている。

2.2 調査方法

調査は口頭と書面でAさんとAさんが就業する施設の理事長に目的・方法等を説明し、許可を得たうえで行った。Cisco Webex社のオンライン会議システムWebex Meetingsを使用したオンライン・インタビュー形式で行い、Aさんの許可のもと録画した。2020年5月7日から6月6日までの間に8回行い、録画時間はおよそ16時間であった⁵⁾。介護福祉士の第32回国試の問題文をAさんが1文ずつ読み上げたのち、著者がAさんにその文の中の語彙の意味を質問する方法で進めた。

読み上げを行った理由は、語彙の構成や文章の区切りを正しく理解しているか確認するためである。EPAの候補者は総ルビの国試問題が選べるため、漢字の読み方がわからないことはない。しかし、三枝(2014)で改善を訴えているが、国試では特に専門用語において長い漢語語彙が使用されており、中川(2015)で論じているとおり語の構成要素の知識があれば、語の認識、習得の手がかりとなる。また、1文ずつ読み上げることで、文の中で語彙の意味が理解または推測できるなら、実際は意味を知らない語彙であったとしても、国試の試験問題では躓かなかつた、理解が困難ではなかつた語彙だと判断できると考えた。以上の理由から、すべての問題の読み上げを行った。

意味の確認においては、わからない語彙をAさんが選ぶ形で実施すると、Aさんが間違えて覚えている語彙を抽出できないと考え、著者が語彙を選び質問した。語彙の意味がわかる、わからないだけでなく、意味を答えることにより正しく理解できているかどうか調べると同時に、どのようなストラテジーを用いて語彙をとらえているかも調べることができると考えた。問題文を形態素に分け、1文ずつすべて質問するとより正確なデータが抽出できるが、時間がかかり、就業中のAさんの妨げになるうえ、当時Aさんは2020年度の国試に向け学習を再開していたため、学習の中で語彙力がつき、2019年度の国試受験時にわからなかつた語彙が正しく測れなくなると考えた。そのため、時間を短縮できるように、意味確認する語彙を著者が選んだ。選択基準は、「介護職」「利用者」「着脱」「膝」など訪日前・訪日後研修で学習し、日々の業務で使用している語彙は当然理解しているものとして取り上げなかつた。学習した語彙であっても、「促す」「控える」「拒否」など国試で頻出であるが、日々の業務では使わずに済ますことができる語彙や、中川・齋藤(2014)で理解困難であると指摘されている「英語以外の外来語語源のカタカナ語」(英語語彙での補足記載のないものに限定)や英語語源のものであるが「原語と意味のずれがあるカタカナ語」は取り上げて意味を確認した。Aさんが意味を答える際には、英語、簡単な日本語や別の日本語表現での言い換え、ジェスチャー、インドネシア語のいずれかを使うことにした⁶⁾。

調査の具体的な進め方は以下の通りである。著者はAさんとのオンライン・インタビューの前に質問する語彙を国試の問題文から選択しておく。インタビューでは、まずAさんが過去問題を1文ずつ読み上げる。著者が予め選択した語彙を「○○って何ですか」「○○はどういう意味？」

と質問する。予め選択した語彙以外にも、読み上げを聞いた上で意味を確認したほうがよさそうな語彙があれば質問する。Aさんは上述のとおり、英語、簡単な日本語や別の日本語表現、ジェスチャー等を使って意味を答える。Aさんがどのように語彙をとらえ、何に困難を感じているか明らかにしたかったため、Aさんが意味を答える以外に思考過程(例:「これは法律と関係があつて、・・・」)や感想(「障害のところは自信がなくて・・・」)なども自由に発話できるような雰囲気づくりに努めた。

以下に第32回国試の問題25を例に実際どのように調査を実施したか示す。網掛けしてある語彙は著者が予め選択し、意味を質問した語彙である。

問題25 介護福祉職の倫理に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 介護の技術が伴わなくても、利用者の要望を最優先に実施した。
- 2 利用者が求めた医行為は、実施が可能である。
- 3 個人情報取扱について、利用者に説明して同意を得た。
- 4 暴力をふるう利用者を自室から出られないようにした。
- 5 業務が忙しかったので、施設の廊下で職員同士の打合せを行った。

上記において「実施」はAさんがわからなかった語彙の1つであるが、選択肢の1と2で合計2回出ている。しかし、本研究の目的は語彙の頻出度を調べるのではなく、EPA候補者が躓く語彙を調べることであるため、「延べ語数」ではなく「異なり語数」で数えた。そのため、この場合「実施」は、わからなかった語彙の1つと数える。しかし、別の問題の中では「実施」が文脈によって理解できることもあるため、各問題でその都度質問し、理解できていた場合はその問題の中のわからなかった語彙には含めなかった。

2.3 問題文の読み上げの調査結果

録画を見直し、読み上げの確認を行った結果、N3以上N2未満の日本語能力といえるAさんは基本的な語彙構成を理解しており、おおむね正しく読めていた。しかし、以下の特徴的な読み間違いや区切りの間違いが認められた。()内は第32回国試内の問題番号を指す。

1) ひらがな・カタカナ語彙

ひらがなが続くと区切りがわからなくなる

例：痰がから／むことがあり、介護・・・(問題111)

知らない語彙の区切りがわからない

例：フェイス／スミート(フェイスシートのこと)・・・(問題117)

2) 漢語語彙

知っている語彙のまとまりで区切る

例：2週間／分内服・・・(問題121)

意味がわからない漢語語彙は2字ずつ区切る

例：平成／30年／版高／齢者／社会／白書・・・(問題21)

例：脱抑／制・・・(問題118)

2.4 語彙・表現の意味確認の調査結果

Aさんが意味のわからなかった各語彙がJLPTのどのレベルに相当するか、「日本語読解学習支援システム リーディング・チュウ太」(<https://chuta.cegloc.tsukuba.ac.jp/>)内の語彙チェッカー機能を使用して調べた⁷⁾。介護の専門用語のカバー率を調べるため、「かいごのことばサーチ」(<https://kaigo-kotoba.com>)に掲載されている語彙を調べた。また、多くのEPA候補者が学習に使用しているJICWELSの教材『外国人のための介護福祉士国家試験対策2020新カリキュラム』シリーズのⅠ～Ⅲの語彙リストおよび『外国人介護福祉士候補者のための介護福祉士国家試験対策テキスト「医療的ケア」』に掲載されている語彙を調べた⁸⁾。併せて、「かいごのことばサーチ」とJICWELSの教材のどちらかに掲載されている語彙を調べた。

表3 第32回国試でAさんがわからなかった語彙(異なり語彙)のJLPTレベルと「かいごのことばサーチ」およびJICWELSの教材語彙リストのカバー率

異なり語数	級外 (%)	N1 (%)	N2/3 (%)	N4 (%)	N5 (%)	かいごのことばサーチ(1) (%)	JICWELS語彙リスト(2) (%)	(1)または(2)に掲載 (%)
387	199 (51.42)	73 (18.86)	112 (28.94)	3 (0.78)	0 (0.00)	146 (37.73)	170 (43.93)	235 (60.72)

5年以上前のデータになるが、中川(2015)は国試の異なり語彙では級外の語彙が7割前後を占めることを明らかにしている。Aさんが第32回国試でわからなかった語彙は級外の語彙が過半数を占め、級外とN1の語彙で約7割を占めることがわかった。「かいごのことばサーチ」やJICWELSの語彙リストに掲載されていない語彙も多いことから、専門用語以外にも困難を感じていたことが予測された。次に、国試の科目ごとにわからなかった語彙の異なり語数を調べ、具体例を取り上げ、表4にまとめた。

表4 第32回国試でAさんがわからなかった語彙の科目別異なり語数と例

科目群	科目名	問題数	異なり語数 ⁹⁾	例(異なり語彙のリストから各問題の1つ目の語彙を抜粋 ¹⁰⁾)
①	人間の尊厳と自立	2	9	人工透析、延命治療
	社会の理解	12	71	地域包括ケアシステム、改革、身寄り、財政、被保険者、権利、指針、地域包括支援センター、創設する、こだわり、成年後見制度、補足性
②	人間関係とコミュニケーション	2	10	自己覚知、初対面
	コミュニケーション技術	8	36	技法、意欲、構音障害、最小限、伴う、指示する、無断外出
③	介護の基本	10	47	散乱する、後遺症、因子、手ぬぐい、版、出来事、沿って、職種、倫理、用いる
④	生活支援技術	26	53	一戸建て、対象、原則、ボタンエイド、身じたく、得る、静止、昇降する、食事バランスガイド、控える、半側空間無視、臍部、応じた、促す、常温、次亜塩素酸ナトリウム、業者、日光、

				密着、死前喘鳴、
⑤	介護過程	8	39	価値観、抽出する、実施、音信不通、実現する、体育、指摘する、農業
⑥	発達と老化の理解	8	25	しがみつく、更新、伴う、出来事、治まる、水疱、維持する、役割
⑦	認知症の理解	10	31	推計値、清明、認める、発症リスク、併用、周回、操作、大腿骨頸部、閉じこもり
⑧	障害の理解	10	39	不利益、対象者、瘻直型、内因性、地域移行、行為、免疫、伴う、前傾、制度化
⑨	こころとからだのしくみ	12	48	欲求階層説、機能局在、疾患、交流、先行期、反射性尿失禁、たんぱく質、弛緩性便秘、抗ヒスタミン薬、書面、強直
⑩	医療のケア	5	24	手前、及び、日頃、管理、実施
⑪	総合問題	12	60	しびれ、缶詰、更新、負担、促す、取り組み、精神保健指定医、電波、きっかけ、操作、平衡感覚、購入、当面
	合計	125	492	

* 太字はAさんが国試の合格ラインの60%を満たなかった科目群

国試の問題は、問題文が1行且つ選択肢が語彙という短いものから、事例問題のように問題文が5行を超え、選択肢も文のものまであり、科目によって問題文が短い傾向のもの、長い傾向のものがあるため、科目の問題数とわからなかった語彙数に相関性はみられない。社会のしくみや制度について問われる「社会の理解」は苦手とする候補者が多いが、Aさんも「漢字が多いのはいいですけど、社会の制度とかしくみは難しい」と言っており、わからなかった語彙数に反映されている。

Aさんがわからなかった語彙がどのような語彙か詳しく見ると、専門用語に関しては、Aさん本人も自覚しているとおり、制度やしくみに関する語彙（例：地域包括ケアシステム、成年後見制度）が多く見られる。病気や障害の症状に関する語彙（例：水疱、瘻直型）も見られる。控える、伴う、実施、疾患、意欲など、国試頻出語彙にも躓いていたこともわかる。専門用語、国試頻出語彙以外にも、手ぬぐい、一戸建て、缶詰、押し入れなど、級外からN4レベルの語彙も見られる。

Aさんがわからなかった語彙は、専門用語かそれ以外か、JLPTのどのレベルに属するかという観点以外からも分別が可能であると考えた。国試でわからなかった語彙をその性質により1～7のカテゴリーに分け、例として（ ）内にAさんがわからなかった語彙から、表4で挙げた語彙以外の語彙を示した。

- 1) 専門用語¹¹⁾ (びらん、常同行動、補装具、下顎呼吸)
- 2) 漢語動詞 (該当する、納得する、共有する、統一する)
- 3) 和語動詞 (占める、嘆く、凶る、うつむく)
- 4) ひらがな語彙 (あいづち、まれ、のんびり、おびえる)
- 5) カタカナ語彙 (クーリングオフ、キャスター、リュックサック、パターンリズム)
- 6) N1からN2/3レベルの無形の漢語名詞 (原理、構成、矛盾点、事情)
- 7) 日本での生活が長い候補者は知っている教師・指導者が考えてしまう可能性がある生活と

関連のある語彙¹²⁾ (手ぬぐい、一戸建て、たんぱく質、缶詰)

例に挙げた「びらん」は専門用語であり、ひらがな語彙でもある。「おびえる」は和語動詞でもあり、ひらがな語彙でもあり、重複している。しかし、上記の7つのカテゴリへの分類は、候補者が国試で躓く語彙を重複なく分類することが目的ではない。「国試で躓く語彙＝専門用語」または「国試で躓く語彙＝級外の語彙」という漠然とした認識だけではなく、その性質を明らかにすることにより、学習する候補者、指導する教師・指導者の学習および指導の一助とすることが目的である。

インタビューの際、Aさんは自信がない語彙について、さまざまなストラテジーを用いて理解に努めていることがわかった。以下の4つに大別され、例として挙げた語彙の後ろの()は、意味を答える際のAさんの答え、発言である。

1) 語彙内の漢字を含む知っている語彙から推測

正しい例：取得 (取ること)

間違った例：回復 (復習)、交流 (流れだから・・・)、密着 (秘密)、振興 (興味)、
出来事 (出来ること)、振戦 (振は振り込むだから・・・)、
長所 (場所の一番上の人)

2) 語彙内の漢字を含む知っている熟語の、語彙内の漢字ではない方から推測

正しい例はインタビュー内になし

間違った例：及び (と呼ばれる) * 「呼吸」の「呼」からの推測であると考えられる
収穫 (集める) * 「収集」の「集」からの推測であると考えられる

3) 語彙の部首・構成要素から推測

正しい例：眺める (見る)

間違った例：技法 (支援すること)、範囲 (困ること)、版 (看板)

4) 似ている音から推測

正しい例はインタビュー内になし

間違った例：どとめる (中止する)、こだわり (ことわる)

3. 追加調査

3.1 調査の概要

著者は2020年5月から2021年1月の第33回国試までの9か月間、Aさんに週1回国試対策授業を行った。授業の詳細はほかの機会に報告したいと考えているが、Aさんは第33回国試に合格した。Aさんの国試対策授業を始める前に、「国試頻出語彙を過去問題や対策本の問題の中から教え、チェックテストで定着を図りながら、必要な介護の専門知識も教える。学習順序は、理解・習得しやすいものから始め、苦手な科目は丁寧に時間をかけて教える。最後の数か月は模試で実践力をつける」という流れで国試対策授業をすれば、Aさんの日本語能力と著者との信頼関係で合格に導くことができると予測していた。そのため、2021年の第33回国試の後には、語彙の理解がどれほど進み、どのような語彙がわからなかったか検証するために、追加調査を行うことを予定していた。万一不合格だった(と国試後の自己採点で判明した)場合は、どのような問題があったかを中心に追加調査する予定であった。

2020年5月から2021年1月までの間、Aさんは授業日のみ特別なシフト¹³⁾での勤務であったが、それ以外は今まで通り施設での通常の勤務を続けた。その期間のAさんの学習状況は、著者との週1回の国試対策授業以外では、毎回授業で課される課題や予習・復習を自分でする必要があった。JICWELSの集合研修が2020年度はCOVID-19のためオンライン研修となったが、JICWELSのオンライン研修と模試にも参加した。

第33回国試が終わり、自己採点で合格だと判明した後、2021年2月に追加調査を行った。不合格だった第32回国試と合格ラインに達した第33回国試では語彙の理解にどのような違いや類似性があるか明らかにすることが目的であった。調査方法は前回同様Cisco Webex社のWebex Meetingsを使ったオンライン・インタビュー形式で、国試の問題文の読み上げと意味確認を同様の方法で行った。意味確認をする語彙の選択基準は前回と同じで、全問題を対象としたが、Aさんの語彙力や知識が向上したため、Aさんが回答に要する時間、および誤答に対して著者が解説する時間が大幅に減り、インタビュー時間は約8時間であった。

3.2 調査結果

問題の読み上げでは正しい位置で区切って読んでおり、問題がなかった。2020年度の国試対策学習を通して語彙や文章の構造に関する理解が進んだことがわかった。

わからなかった語彙の異なり語数、JLPTレベル、教材のカバー率について、同様に以下の表にまとめた。

表5 第33回国試でAさんがわからなかった語彙（異なり語彙）のJLPTレベルと「かいごのことはサーチ」およびJICWELSの教材語彙リストのカバー率

異なり語数	級外 (%)	N1 (%)	N2/3 (%)	N4 (%)	N5 (%)	かいごのことはサーチ(1) (%)	JICWELS語彙リスト(2) (%)	(1)または(2)に掲載 (%)
114	35 (30.70)	43 (37.72)	36 (31.58)	0 (0.00)	0 (0.00)	39 (34.21)	39 (34.21)	59 (51.75)

9か月の国試対策学習を経て、Aさんの語彙力が伸びたことがわかる。大きな変化としては、わからなかった語彙の異なり語数が第32回に比べ3割程度まで減少した。わからなかった語彙の中で級外の語彙とN1の語彙が約7割を占めることは、第32回、第33回で共通している。今回「かいごのことはサーチ」やJICWELSの語彙リストのカバー率が下がったのは、9か月の国試対策学習によりAさんの専門用語の理解が進んだ結果といえよう。次に、国試の科目ごとにわからなかった語彙の異なり語数とわからなかった語彙の具体例を表6にまとめた。

表6 第33回国試でAさんがわからなかった語彙の科目別異なり語数と例

科目群	科目名	問題数	異なり語数 ⁹⁾	例(異なり語彙のリストから各問題の1つ目の語彙を抜粋 ¹⁰⁾)
①	人間の尊厳と自立	2	6	人権、造設する
	社会の理解	12	14	以降、給付費、交付、充実する、保健、移行、精神作用物質、養介護施設

②	人間関係とコミュニケーション	2	6	葛藤、矛盾する
	コミュニケーション技術	8	9	受け身、持参する、背景、両者、情報源、同調する
③	介護の基本	10	10	提唱する、表す、手配、保護、法則
④	生活支援技術	26	18	蒸気、つまづく、踏切、転落、装着する、疑う、作用、踏まえて、浮力、ナイロンたわし、実現、もむ、喘息、吸着率、追及する
⑤	介護過程	8	3	踏み込む、具体的、解釈
⑥	発達と老化の理解	8	9	思いやり、ふぞろい、悲嘆、向ける、動機づけ、達成、器質性便秘、作用、口渴感、
⑦	認知症の理解	10	9	事柄、誇張する、希死念慮、既に、脳血流、有用、脳波、極めて、離床する
⑧	障害の理解	10	10	とらえ方、語源、領域、おそれ、行為、拒絶、不当、処分する、交付する、手段
⑨	こころとからだのしくみ	12	8	小児、しわ、調節、興奮する、熟睡、周期、不規則、死斑
⑩	医療的ケア	5	5	とらえる、内径、分担する、数日
⑪	総合問題	12	16	フレイル、生き生きした、飛び出す、徐々に、いずれ
合計		125	118	

* 太字はAさんが国試の合格ラインの60%を満たなかった科目群

Aさんがわからなかった語彙は2.4節で示した7つのカテゴリーに分類できる。

- 1) 専門用語¹¹⁾ (脳波、不定愁訴、寛解)
- 2) 漢語動詞 (存在する、対立する、離床する)
- 3) 和語動詞 (与える、演じる、向ける)
- 4) ひらがな語彙 (ふざける、とらえる、いずれ)
- 5) カタカナ語彙 (フレイル)
- 6) N1からN2/3レベルの無形の漢語名詞 (口論、動向、条件)
- 7) 日本での生活が長い候補者は知っているが教師・指導者が考えてしまう可能性がある生活と関連のある語彙¹²⁾ (踏切、ナイロンたわし)

Aさんは学習を通し語彙を推測するストラテジーも向上したため、第32回の際に見られた音によるストラテジーの誤用がなくなり、漢字語彙を使った推測においても基本的な意味を持つ語彙からの推測が多くできるようになっていた。

第32回、第33回でどちらもわからなかった語彙として、実現、背景、予算、口調、出来事などが挙げられる。Aさんは「先生と一緒に勉強したのは覚えていますけど、忘れてしまいました」と言っており、学習したという意識はあるが、N1、N2/3レベルの無形の漢語名詞は覚えにくい、または定着しにくいといえる。また、第32回では意味を正しく答えられたが、第33回では答えられなかった語彙として、交付、手段、推測、保健などが挙げられる。給付費や情報源は、第32回で給付や情報は正しく答えられたが、費や源がついたことでわからなかったようである。接頭

辞・接尾辞がつく、複合名詞・複合動詞になる、動詞の活用が複雑になると、困難を感じやすくなると考えられる。

4. まとめ

4.1 調査のまとめ

本研究で行った2回の調査により、国試に合格だった場合・不合格だった場合でわからなかった語彙数は大きく異なるものの、国試のどのような語彙がわからなかったかについては同様の傾向が見られることが明らかになった。

1. 国試でわからなかった語彙の約7割がJILPTの級外およびN1レベルの語彙であり、残りの約3割がN2/3レベルの語彙である。
2. 非日本語母語話者向け国試対策教材に掲載されていない語彙も国試の問題文には含まれており、候補者はそのような専門用語ではない語彙にも躓く。
3. 国試でわからなかった語彙は7つのカテゴリーに分類できる。
 - 1) 専門用語
 - 2) 漢語動詞
 - 3) 和語動詞
 - 4) ひらがな語彙
 - 5) カタカナ語彙
 - 6) N1からN2/3レベルの無形の漢語名詞
 - 7) 日本での生活が長い候補者は知っているが教師・指導者が考えてしまう可能性がある生活と関連のある語彙

今回の調査結果は、AさんがEPA候補者の一般的な日本語能力（訪日後研修修了時にN3相当レベル¹⁴⁾）に達しており、その後の学習でN2に近い能力を持っていたこととも関係があると思われる。日本語能力がより低い場合は、国試の問題内のN2/3やN4レベルの語彙にも困難を感じると予想される。

4.2 考察

第32回と第33回国試で同様の傾向を示しながら、不合格と合格にわかれた違いは、やはり理解できる語彙数および介護知識にあるといえる。

理解できた語彙に焦点を向けると、N3以上N2未満の日本語力のAさんは、第32回国試の調査においてN3までの語彙は、一般的な日常生活語彙、介護施設での業務で使用される語彙・専門用語など、おおむね理解していた。級外を含むN2以上の語彙は、業務で使用される語彙は、Aさん本人が業務で使用している語彙は当然理解できていたが、運用可能なレベルでなくても意味が理解できるものも数多くあった（例：配膳する、採尿パック、仙骨部）。また、それまでの国試対策の学習で習得したと思われる語彙も多くあった（例：アセスメント、エピソード記憶、体幹、浮腫）。しかし、独学中心での学習では、施設での日々の業務に関するコミュニケーションや介護技術に関する分野などに理解が偏っていた。語彙それぞれの理解と文章全体の理解、および既知の介護知識が結びつかないこともあった。そのため、Aさんは全体的に自信がなく、調査時に

問題のどの選択肢を選んだか尋ねると、「あまりよくわからなかったんですが」「全然わからなかったんですけど、答えは合っていました」と発言することが多かった。また、これまでに著者が国試対策授業で担当した候補者にも見られたことだが、解答を選択肢から選ぶ際、以前の学習において解答の中で見たことがある語彙、または学習したことがある語彙があると、明らかに誤答であるにもかかわらず選んでしまう傾向があった。Aさんも調査時に「間違っているとわかっていたんですけど、ほかは意味がわからなかったから、これを選びました」というような発言が何度かあった。

一方、第33回国試では、理解できる語彙が級外レベルの専門用語中心に増えた。第33回でAさんがわからなかった専門用語は、不定愁訴、寛解、フレイル、死斑など過去の国試において出題されたことがない、または頻出ではない語彙であった。基本的な専門用語、頻出用語を習得したことにより、介護知識の習得も円滑に進んだ。実際、国試対策授業においても、5月の開始当初は問題の解説の語彙が理解できず時間を要した。しかし、学習が進み語彙力が向上すると、解説の理解が容易になり、介護知識も分野・科目を超えて広がり、つながり、深まった。第33回の調査時においてもどの選択肢を選んだか尋ねたが、Aさんは根拠を正しく述べたうえで正しい答えを選んでいった。第32回調査時のように明らかな誤答にもかかわらず、知っている語彙が入っているという理由だけで解答を選択することは皆無であった。また、間違えた問題に関しても、「あれ、どうしてこれを選んだのかな。今はわかります」と言って、調査時には根拠を正しく言えているものが数問あった。看護師候補者と違い、3年就労後にしか国試が受けられない介護福祉士候補者は国試に並々ならぬプレッシャーを感じるそうだが、語彙力および介護知識がついたことで、多少の判断ミスをしながらも、試験中に自信を喪失することなく、試験問題に取り組めたと考えられる。

表1からもわかるとおり、インドネシアとフィリピンの候補者の再受験の合格率はきわめて低い。著者が訪日後研修を担当した候補者にも、数点足らずで不合格だった翌年再度不合格になる候補者がいる。中には再受験に向けて1年学習したにもかかわらず点数が下がって不合格になる候補者もいる。再受験予定の候補者の多くが、すでに一通り学習したという理由で、再受験に向けた学習ではひたすら模試や過去問題を解いている。しかし、語彙力を上げ、分野・科目を超えて介護知識を深めなければ、国試の問題文の表現の仕方や選択肢の違いが「見たことがない問題」「新しい問題」に見えるのだろう。専門用語だけでなく、問題文の理解に欠かせないN2から級外レベルの語彙の習得も不可欠であるといえる。

4.3 教育への応用

最後に、本研究の結果を教師や指導者がどのように活用できるか考えたい。EPAの候補者が就業後に施設や教育機関で教師や指導者による国試対策授業・講義を受ける場合、①介護の専門家または施設の指導者と、日本語教師の協働、②日本語教師のみ、③介護の専門家または施設の指導者のみに大別される。②の場合、本研究の結果を活用した語彙指導が可能である。①および③の場合、介護の専門家や施設の指導者はEPAの候補者の日本語レベル、特性などを適切に理解することが難しいことがある¹⁵⁾。実際、介護の専門家や施設の指導者の授業・講義についてEPAの候補者に感想を聞くと、N2、N1レベルの候補者は「よくわかった」「言葉が難しかったけど、役に立った」というような意見を言うが、N3レベル以下の候補者は「速かった」「言葉が難しくくて

よくわからなかった」と言うことが多い。国試を受験する日本人介護職に対する授業・講義と同じ言葉遣いではEPAの候補者には理解が困難である。語彙だけでなく、使う表現や文の構造や長さも関係あるが、本研究の結果を活用することで、「和語やひらがな語彙が難しく感じるのか」、「漢字は1つ1つの基本の意味を理解しているのではなく漢語単語レベルで理解していることが多いのか」、「生活に関係がある言葉は意外と知らないものも多いのか」など、日本人とは異なることがわかる。候補者の日本語レベルや特性に応じた国試対策授業・講義が行われると、学習が効果的に進むと期待できる。また、日本語教師が本研究の結果に関して介護の専門家や施設の指導者との橋渡しを担うことも可能である。

5. 今後の課題

本研究により国試に不合格となるEPA介護福祉士候補者の国試の語彙理解に関する傾向の一端を知ることができるが、調査対象がインドネシア人候補者のAさん1名であったため、安易に一般化することはできない。今後、調査人数を増やすこと、合格者のケースも調べる必要がある。また、意味がわからなかった語彙の割合と解答の正答・誤答の関連性や、誤答理由の分析も行いたい。それらを反映させた国試対策授業を行い、調査研究結果を教育の実践につなげたい。

謝辞

本研究に快く協力してくださり、さまざまな情報提供をしてくださったAさんに感謝申し上げます。特に第32回国試不合格の後および第33回国試の結果発表前という大変な時期に、1語1語わからないことを掘り下げるといふ困難に長時間向き合ってください、誠にありがとうございました。本研究を承諾してくださったAさんの勤務施設の理事長にも感謝申し上げます。

注

- 1 EPAの看護・介護の受入れの枠組みについては厚生労働省のホームページにまとめたものが公開されている。(https://www.mhlw.go.jp/content/000639886.pdf)
- 2 国試対策の学習開始当初は非日本語母語話者向けの教材を使用し、学習が進むに伴い国試の過去問題や模擬問題集のような市販の国試対策本も使われるようになることが多い。
- 3 EPA候補者に対する学習支援及び試験上の配慮は厚生労働省のホームページにまとめたものが公開されている。(https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/000759475.pdf)
- 4 ベトナムの候補者のみ高い合格率を維持しているのは、ベトナムがかつて漢字文化圏に属していた影響、訪日時の日本語能力がインドネシア、フィリピンより高く、N3に設定されていることなどが考えられる。インドネシアとフィリピンの候補者では、インドネシアの候補者がN4程度以上で、フィリピンの候補者がN5程度以上と、訪日時の日本語能力がインドネシアの候補者の方が高く設定されていることが両国の合格率の違いの一因であると考えられる。
- 5 当初、Aさんが問題文を読み上げ、著者が語彙の意味を聞く形で解説などは一切行わず次々進める予定でいたが、国試受験生であるAさんの貴重な時間をわからないということを露呈させるだけで終わることは倫理的にできず、各問題の語彙の意味をすべて聞いたあとで、解説を

行ったため、インタビュー時間が長くなった。

- 6 Aさんの母語はクバン語であるが、インドネシアでの教育、特に看護大学での教育ではインドネシア語、英語を使用していたため、母語は含めなかった。本調査においてAさんがインドネシア語でのみ意味がわかる語彙は1つしかなかった。
- 7 「日本語読解学習支援システム リーディング・チュウ太」内の語彙チェッカー機能は、1級～4級までの4レベルに分かれていた旧JLPTの語彙レベルに則っている。そのため、2級レベルの語彙は「N2/N3」と判定される。現在のJLPTではN1～N5の各レベルの語彙は公開されていない。
- 8 『外国人のための介護福祉士国家試験対策2020新カリキュラム』シリーズのⅠ～Ⅲには科目毎に始めに語彙リストが掲載されているため、その語彙リストを用いた。『外国人介護福祉士候補者のための介護福祉士国家試験対策テキスト「医療的ケア」』には語彙リストが掲載されていないため、各ページ右側に取りあげて意味の説明がある語彙・表現を使用した。『外国人のための介護福祉士国家試験対策2020新カリキュラム』シリーズのⅠ～Ⅲにおいては、科目毎の語彙リスト以外の語彙は本研究の調査には使用していない。
- 9 表3と表5の異なり語数はそれぞれ第32回および第33回国試でAさんがわからなかった語彙全体の異なり語数である。表4と表6はそれぞれAさんがわからなかった語彙の科目別異なり語数である。そのため、表3と表4、表5と表6の異なり語数は異なる。
- 10 わからなかった語彙のない問題からは例を取り上げていないため、問題数と例として取り上げた語彙の数は異なる。
- 11 JICWELSの教材の語彙リストと「かいごのことはサーチ」の語彙には介護の専門用語としてではなく一般的に使用される語彙も多くみられるが(例:役割、評価、家事)、本論のカテゴリー分類における「専門用語」では介護・医療分野の専門用語として使用される語彙のみをさす。
- 12 候補者は日本滞在年数が数年になるが、アパートで生活し、介護施設で働いて日々を過ごしているため、日本人の日常生活、家庭生活についてはよく理解していない事柄も多い。特に高齢者の家庭生活、住宅環境については、訪問介護に携わっていないこともあり、学習したこと以外は知らないことが多いと思われる。これは著者が国試対策授業をしている中で生活支援技術に関することを教える時にも感じていたことでもあるが、今回のインタビューにおいてもその傾向が確認されたため、7つ目のカテゴリーに入れた。
- 13 2020年5月から2021年1月までの授業日のみ、Aさんは午前2時間日本語の授業、2時間介護の業務、午後3時間自律学習という特別なシフトで勤務していた。
- 14 JICWELSの「2021年度受入れ版EPAに基づく外国人看護師・介護福祉士候補者受入れパンフレット」のp.14の「3.候補者の日本語能力」を参照。(https://jicwels.or.jp/files/EPA_2021_pamph.pdf)
- 15 布尾(2016)でも取り上げられているとおりEPAの看護師・介護福祉士の受入れ制度創設時から数年間、JLPTのN4の日本語能力を、日本語母語話者を基準として「小学生高学年レベル」と表すことが新聞などで見られた。近年においても技能実習や特定技能の介護の日本語に関して、同様の情報がインターネット上で見られる。日本で生まれ育つ日本語母語話者の日本語習得と、訪日前・訪日後研修を中心に研修機関で短期集中的に日本語を学ぶEPAの候補者の日本語習得は全く異なる。しかし、メディアの誤った情報を基にすると、候補者の日本語力や特性

を正しく理解できなくなるおそれがある。

参考文献

- 一般財団法人国際交流&日本語支援Y（編著）（2019）『外国人のための介護福祉士国家試験対策 2020新カリキュラムⅠ「人間と社会」』光洋スクエア
- 一般財団法人国際交流&日本語支援Y（編著）（2019）『外国人のための介護福祉士国家試験対策 2020新カリキュラムⅡ「介護」-1』光洋スクエア
- 一般財団法人国際交流&日本語支援Y（編著）（2019）『外国人のための介護福祉士国家試験対策 2020新カリキュラムⅡ「介護」-2』光洋スクエア
- 一般財団法人国際交流&日本語支援Y（編著）（2019）『外国人のための介護福祉士国家試験対策 2020新カリキュラムⅢ「こころとからだのしくみ」』光洋スクエア
- 遠藤織枝・三枝令子（2013）「介護福祉士国家試験の平易化のために—第23回、24回試験の分析」『人文・自然研究』7、pp.22-41
- 神村初美（監修）（2019）『介護と看護のための日本語教育実践—現場の窓から—』ミネルヴァ書房
- 公益社団法人国際厚生事業団（2014）『外国人介護福祉士候補者のための介護福祉士国家試験対策テキスト「医療的ケア」』
- 三枝令子（2014）「介護福祉士国家試験平易化の検証—第25回試験の分析」『人文・自然研究』8、pp.171-189
- 武内博子（2017）「EPAに基づく介護福祉士候補者が捉えた介護福祉士国家試験対策過程とは—インタビューの分析から—」『日本語教育』166号、pp.1-14
- 田辺淳子（2018）『シャドウイングで学ぶ介護の日本語 場面別声かけ表現集』凡人社
- 田村敦子（著）・初貝幸江（監修）（2017）『外国人の介護国試合格BOOK』テコム出版事業部
- 中川健司（2010）「介護福祉士候補者が国家試験を受験する上で必要な漢字知識の検証」『日本語教育』147号、pp.53-58
- 中川健司（2015）「介護福祉士国家試験カリキュラム変更に伴う使用語彙の変化に関する調査」『専門日本語教育研究』第17号、pp.67-81
- 中川健司・齋藤真美（2014）「介護福祉士国家試験におけるカタカナ語の特徴」『専門日本語教育研究』第16号、pp.73-78
- 布尾勝一郎（2016）『迷走する外国人看護・介護人材の受け入れ』ひつじ書房
- 野村愛・川村よし子・斉木美紀・金庭久美子（2011）「単語難易度と出題頻度に配慮した介護福祉士候補生のための語彙リスト作成」『日本語教育方法研究会誌』18(2)、pp.12-13

参考ウェブサイト

- 公益社団法人社会福祉振興・試験センター「介護福祉士国家試験過去の試験問題」：http://www.sssc.or.jp/kaigo/past_exam/index.html（2021年3月28日確認）
- 公益社団法人社会福祉振興・試験センター「介護福祉士国家試験出題基準・合格基準」：<http://www.sssc.or.jp/kaigo/kijun/index.html>（2021年3月28日確認）
- 厚生労働省「介護福祉士候補者への学習支援及び試験上の配慮」：<https://www.mhlw.go.jp/conte>

nt/12004000/000759475.pdf (2021年3月28日確認)

厚生労働省「経済連携協定に基づく受入れの枠組」：<https://www.mhlw.go.jp/content/000639886.pdf> (2021年4月27日確認)

厚生労働省「第33回介護福祉士国家試験におけるEPA介護福祉士候補者の試験結果」：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17654.html (2021年3月28日確認)

介護の漢字サポーター：<http://kaigo-kanji.com/> (2021年3月28日確認)

かigoのことばサーチ：<http://kaigo-kotoba.com/> (2021年3月28日確認)

かigoのご！：<https://kaigonogo.com/supporter/> (2021年3月28日確認)

JICWELS「書籍取扱」：<https://jicwels.or.jp/shop/> (2021年3月28日確認)

JICWELS「2021年度受入れ版EPAに基づく外国人看護師・介護福祉士候補者受入れパンフレット」：https://jicwels.or.jp/files/EPA_2021_pamph.pdf (2021年4月28日確認)